

東海道川崎宿

2023いきいき作戦

第参巻 総括の書

協働による東海道川崎宿の歴史文化を活かしたまちづくり
2003-2023 20年間のあゆみ



令和6年3月

東海道川崎宿2023

(東海道川崎宿を活かした地域活性化推進組織)

【はじめに】

『東海道川崎宿 2023 いきいき作戦』は、2003 年の策定当初から目標年度を、川崎宿起立 400 年の「2023」年に定めていました。街道筋から面影が失われた川崎宿の歴史文化に再び光を当て、20 年かけて「いきいき」としたまちづくりをしていこうという市民提案書でした。

私たち「東海道川崎宿 2023」はこの提案書に基づき、行政との協働で様々な事業に取り組む組織として活動してきました。平成 22（2010）年度には提案内容のアップデートを行い、『東海道川崎宿 2023 いきいき作戦 第貳巻』を発行しています。

令和 3（2021）年には「川崎宿起立 400 年プロジェクト推進会議」が設立され、地域の企業・団体が参画したプロジェクトが動き始めます。そして 2023 年、私たちは「東海道シンポジウム 2023 川崎宿」を企画・運営し、地元市民や各宿関係者と共に盛大に開催することができました。

目標年度を終えた「東海道川崎宿 2023」は活動を終えることとし、『総括の書』をここに発行いたします。ご参加・ご協力くださいました全ての方々に厚く御礼を申し上げますと共に、東海道川崎宿の歴史文化を活かしたまちづくりが今後も発展、次世代に引き継がれていくことを、委員一同祈念いたします。長い間、ありがとうございました。



令和 6 年 3 月 東海道川崎宿 2023 代表 原 宇八郎
写真：シンポジウム閉会式で次回ホスト新居宿に大会旗を手渡す原代表(左)

【目 次】

1) 『東海道川崎宿 2023 いきいき作戦』の概要	3
2) 東海道シンポジウム 2023 川崎宿 ～むすび つながる 東海道～	4 - 5
3) 東海道川崎宿 2023 まつり・三角おむすびレシピコンテスト	6 - 7
4) 2023 年に向けた活動 川崎宿大学、三角おむすび塗り絵、PR 活動	8 - 9
5) 川崎宿の歴史文化を活かしたまちづくりの始まり～「東海道川崎宿 2023」の誕生	10
6) 前期（2003～11）の活動	11
7) 後期（2012～22）の活動	
テーマ①拠点づくり	12
テーマ②まちなみ整備	13
テーマ③文化の創出 東海道川崎宿スタンプラリー	14 - 15
テーマ④情報発信	16 - 17
8) 委員寄稿 ～20 年間の思い出、未来へのメッセージ～	18 - 19

1)『東海道川崎宿 2023 いきいき作戦』の概要

【3つの方針】

①身近なことから取り組もう ②楽しみながら進めよう ③市民パワーを活かそう

【5つのゾーン】 上から



芭蕉ゾーン	坂本九ゾーン	惣之助ゾーン	休愚ゾーン	万年屋ゾーン
八丁囃⇔市電通り	市電通り⇔新川通り	新川通り⇔市役所通り	市役所通り⇔国道 409 号	国道 409 号⇔六郷橋
芭蕉のアピール 市民参加の強化	エンターテインメント・若者 文化の発信	商店街活性化、名物づ くり、景観形成	歴史のアピール（史跡・寺 社等）、景観形成	六郷の渡し 万年屋 江戸文化のアピール
芭蕉句碑・無縁 塚・カリン並木	小土呂橋跡・教安寺・ ヲチヂン・京口跡	佐藤本陣（惣之助生家） 跡・観行院・大徳寺	田中本陣跡・問屋場跡・宗 三寺・一行寺・稲毛神社	万年屋跡・六郷の渡し 跡・川崎稻荷社

【4つのテーマと 11 の提案】 第2巻で再整理された提案 ※当初は 4 テーマ 16 提案

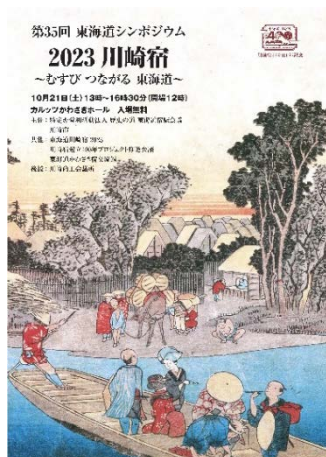
テーマ① 拠点づくり	
1. 「(仮称) 文化交流拠点施設」の活用	維持、管理・運営参加、講座や企画展、定期刊行物、お休み処
2. 商店街元気アップ	音楽による演出、トイレ協力店、商店街イベント参加・協力、 店先休憩所、川崎宿包装紙、オープンカフェ、PR 高札
テーマ② まちなみ整備	
3. 石碑・句碑の活用	芭蕉句碑活用、歌碑めぐり、歌碑新設、歌イベント・グッズ
4. 川崎宿まちなみの整備	シャッター浮世絵ギャラリー、二ヶ領用水顕彰、フラッグ・幟、旧町名看板・地図、 江戸意匠、蔵の保存、丸型ポスト、花街道、カリン並木活用、松の植栽
5. 楽しく歩こう川崎宿	解説版・案内板、横丁愛称募集、安心して歩ける道づくり
テーマ③ 文化の創出	
6. 寺社仏閣プロデュース	寺社仏閣 PR、イベント復活、グッズ・キャラクター、寺社巡り
7. ゆかりの人物売り出し作戦	佐藤惣之助、坂本九さん、泉田二君（小泉次太夫&田中休愚）
8. イベント満載川崎宿	イベント PR・情報発信、新規イベント開催
テーマ④ 情報発信	
9. 名物・名産品開発	名物・名産品開発、名物・名産品コンテスト
10. シンボルマーク、キャラクターの作成	シンボルマーク、キャラクターの作成・活用
11. PR・情報発信	川崎宿シンボル、既存施設・イベント PR、多媒体による発信、 川崎宿カルタ、オリジナル消印・切手、川崎宿遊ゆうガイド

【実現に向けての考え方】 第2巻で追記

- ①目的意識をもって進めよう ②役割分担を明らかにしよう
③組織の強化・充実を図ろう ④選択と集中で取組もう



2) 東海道シンポジウム 2023 川崎宿 ～むすび つながる 東海道～



2023 年 10 月 21 日 (土) 13 時～16 時 30 分 カルッツかわさきホール

「歴史の道 東海道宿駅会議」が毎年、東海道の宿場で開催する東海道シンポジウムの第 35 回を川崎市との共催、川崎宿起立 400 年記念の大会として開催しました。各宿場の関係者、地元川崎市民など 700 人以上が来場し、川崎宿の歴史文化に触れていただく素晴らしい機会となりました。



東海道宿駅会議 堀江理事長 開会あいさつ



大会シンボル「旅路の像」の引き継ぎ



司会の鈴木氏・平出氏

■基調講演 「川崎宿と江戸の女たち」 堀口茉純氏

江戸に詳しく歴史タレントとして数々のメディア出演・著書のある堀口茉純さんに、川崎の宿場時代の様子や出来事、そこにいた女性たちの姿を紹介いただきました。

■パネルディスカッション「むすび つながる 東海道のまちづくり」

市立枚方宿鍵屋資料館の辻田氏、鞠子宿 17 代丁子屋平吉の柴山氏、旧東海道品川宿まちづくり協議会の大越氏、川崎宿から石渡氏が各宿場の取り組みを発表。まちづくりのコツや課題、「むすび つながる」ことの大切さなどについてディスカッションしました。



堀口茉純氏 基調講演



パネルディスカッションの様子



■「御紋むすび伝説」で川崎宿をアピール！

紙芝居屋 もっちいさんが川崎宿の「御紋むすび伝説」(下記参照)を南京玉すだれ紙芝居で紹介。

その後は市民有志団体「おむすびーZU」を中心に「川崎おむすび音頭」が披露され、会場一体となって歌って踊って盛り上がりました。



御紋むすび伝説

徳川吉宗一行が川崎宿宿泊の際、田中本陣の田中休愚が近在から炊いたお米を集め、お盆上で葵の御紋に見立て出したおむすびが「三角おむすびの発祥」とする説。

川崎おむすび音頭

「おむすびーZU」が、平成30年度いきいきかわさき区提案事業で制作。

作詞・作曲：古川はじめ、歌：あらたに葉子、振り付け：中村福駒

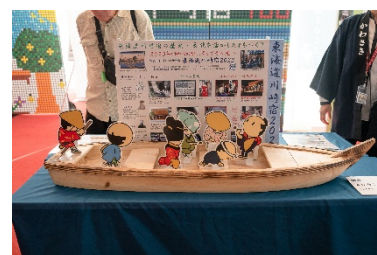
地域の様々なイベントや夏の盆踊りなどで披露されています。



■会場での展示や出店 夜は宿場関係者の交流会

ロビーでは川崎宿の模型や写真、歴史解説パネルやアート作品、各宿場の広報物などが展示された他、2階出入口外のデッキ上は川崎宿のおみやげ等売る出店で賑わいました。

夜は川崎商工会議所で交流会。宿場間の情報交換・交流を深めました。翌日は、かわさき歴史ガイド協会によるガイドツアー、六郷の渡しまつりも開催され、川崎宿満喫の二日間となりました。



3) 東海道川崎宿 2023 まつり・三角おむすびレシピコンテスト

■東海道川崎宿 2023 まつり（平成 27 年～）

川崎宿起立 400 年（2023 年）が近づく中、東海道川崎宿の歴史文化をアピールし、より多くの市民に触れてもらうため、平成 27（2015）年から開催したまつりです。

川崎宿の総鎮守、稲毛神社（河崎山王社）の毎年 4 月の稲荷講さくらまつりと同日開催とし、隣接の稲毛公園で江戸文化を意識した飲食店や体験ブース、ステージなどを展開した他、三角おむすびレシピコンテストの決選投票、表彰式の間ともなってきました。（▶P.7）

東海道川崎宿 2023 を中心とした実行委員会で企画・運営してきたこの祭りは、2023 年には川崎宿起立 400 年プロジェクト「東海道川崎宿場まつり」として拡大開催されました。

※令和 2 年の第 6 回はコロナ禍で中止されました。



■ 東海道川崎宿三角おむすびレシピコンテスト（平成 27 年～）

三角おむすび発祥の地のアピール、地域活性化、「川崎名物おむすび」の創出を目的に開催したコンテストです。年末頃からレシピを公募し、毎回 100 作品以上の応募がありました。区内業者や企業、商店街、PTA などの代表、川崎区長で構成された審査委員会による書類審査、食味審査を経て、毎回 20 作品前後の入賞レシピを選んできました。



決勝進出レシピは、東海道川崎宿 2023 まつりの会場で販売され、実際に食べていただいた方々の投票で優勝作品を決定、祭ステージ上、閉会式前のクライマックスで表彰式を開催してきました。

入賞レシピは区のホームページ上で公開し、区内業者等が自由に販売できるようにしました。2023 年開催の第 9 回まで、地方からの応募や区内小学生の入賞、市立川崎高校の生徒から優勝者が出るなど、毎回盛り上がりを見せてきました。



毎年行列の決勝進出レシピおむすびの販売



表彰式後、優勝者・準優勝者との記念写真

過去入賞
レシピ等紹介
ホームページ



回数	表彰式開催時期	優勝作品
第 1 回	2015 年 4 月	小松菜ごはんのみそ焼きおむすび
第 2 回	2016 年 4 月	大師の浜～貝やおおさをまぜ込んで～
第 3 回	2017 年 4 月	おむすびはバクハツだ。
第 4 回	2018 年 4 月	かわさき餃子みそチーズおむすび
第 5 回	2019 年 4 月	カリカリ梅のバター醤油おむすび
第 6 回	2020 年 11 月※	小松菜ベーコンチーズのスパイシー焼きおむすび 「川崎の朝ごはん」おむすび
第 7 回	2021 年 4 月	サッパリおむすび
第 8 回	2022 年 4 月	れんこんとじゃこの甘辛おむすび
第 9 回	2023 年 4 月	塩さば柚子胡椒マヨおむすび

※第 6 回は新型コロナでまつり中止、決選投票ができず 2 作品優勝とし、表彰式のみ開催しました。

4) 2023 年（東海道川崎宿起立 400 年）に向けた活動

■川崎宿大学（平成 30 年）

川崎宿・江戸時代の生活文化や歴史を共に学び、2023 年に向けた交流の場の形成や人材発掘等を目標に、「川崎宿大学」と題した市民講座を企画・運営してきました。

毎回、かわさき市政だより等で事前広報。参加者にはスタンブ欄付きの学生証を発行し、4 回以上ご参加いただいた方を第 6 回開催時に表彰しました。



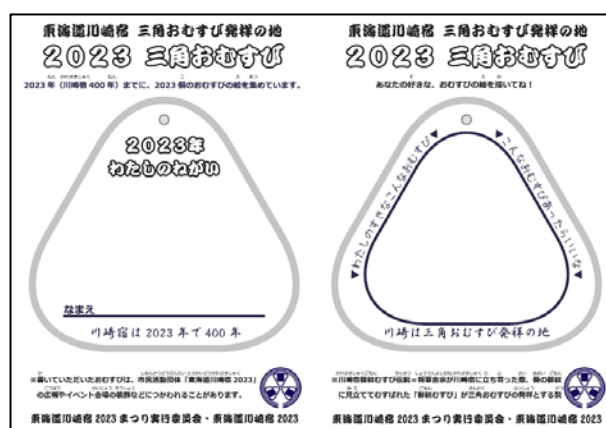
回数・開催年月	講座タイトル・講師（開講当時肩書）
第 1 回 平成 30（2018）年 10 月	無形文化財「川崎山王祭り 宮座式」をまなぶ 【写真上】 市川緋佐麿氏（稲毛神社宮司）
第 2 回 平成 31（2019）年 1 月	川崎のむかし話 萩坂心一氏（民話作家 萩坂昇氏 甥）
第 3 回 令和 2（2020）年 6 月	川崎宿のまちなみ 【写真下左】 望月一樹氏（神奈川県立歴史博物館 学芸部長）
第 4 回 令和 2（2020）年 11 月	蕎麦のはなし 【写真下中】 近藤博昭氏（保土ヶ谷宿 宿場そば桑名屋 四代目店主）
第 5 回 令和 3（2021）年 6 月	紅づくりの技と紅の歴史・文化 【写真下右】 八木原美佳氏（紅ミュージアム エducーター）
第 6 回 令和 4（2022）年 2 月	田中久重のからくり人形・発明・活動 東芝の歴史と川崎 木下成雄氏ほか（東芝科学未来館）
特別回 令和 5（2023）年 2 月	伊能図で見る川崎宿 ※川崎宿起立 400 年記念特別回として開催 横溝高一氏（伊能忠敬 e 資料館 IT アドバイザー）



■三角おむすびめり絵

地域のお祭り、イベント等で参加者に楽しんでもいただきながら、川崎宿起立 400 年（2023 年）を知っていただくために、三角おむすびを自由に描いていただく台紙を平成 29（2017）年頃から用意し、活用していました。

平成 30（2018）年からは、2023 年に向けた願い事も書きこめる両面の台紙とし、2023 年までに



2,023 作品を集めることを目標に定めて、PR・収集活動をしてきました。

新型コロナ禍に伴う相次ぐイベントの中止などで一時は収集が停滞しましたが、集まった作品を川崎図書館やイベント会場等で展示する活動も行い、2022 年末までに 2,263 枚の作品を集めることが出来ました。（イベント等での収集活動については下記参照）

迎えた 2023 年 10 月のシンポジウムでは、収集した中から選んだ 1,000 以上の作品を活用して作成した「川崎宿 400 年」のモザイクパネルを会場内で展示しました。



■ 川崎宿起立 400 年に向けた PR 活動

平成 24（2012）年頃から地域のイベントに出展などして活動紹介をしてきましたが、平成 27 年頃からは三角おむすびめり絵や川崎おむすび音頭（▶P.5）等を活用した体験やステージ等を併せて行うことで、2023 年の川崎宿起立 400 年に向けた PR 活動を行ってきました。

イベント名	PR 開始時期	開催月	PR 活動内容
東海道川崎宿 2023 まつり	平成 27 年	4	麦わら細工、めり絵、音頭（R 元～）
富士通スタジアム夏祭り★	令和元年	8	めり絵、音頭
フェスティバルなかわさき告知イベント	平成 29 年	9	音頭、
市バス安全・安心フェスタ	平成 29 年	10	麦わら細工、めり絵
東海道川崎宿スタンプラリー★	平成 29 年	10～11	麦わら細工、めり絵（H30～）
川崎区社協福祉まつり	平成 29 年	12	めり絵
一行寺藪入り縁日	平成 27 年	1	麦わら細工、めり絵（H30～）

★のイベントは、年度によって開催時期や名称の変更あり

※麦わら細工は詳細後述（P.17）、めり絵＝三角おむすびめり絵、音頭＝川崎三角おむすび音頭

※その他参加イベント：KAWASAKI Halloween ほか



5) 川崎宿の歴史文化を活かしたまちづくりの始まり

～「東海道川崎宿 2023」の誕生（～2003）

東海道の宿駅制度 400 年の平成 13（2001）年、全国の宿場町で東海道のイベントや事業が展開される中、川崎でも市民ボランティアガイド組織「**かわさき大師観光ガイドの会**」が立ち上がったほか、「**大川崎宿まつり**」が開催されるなど市民の動きが活発になってきます。

平成 14（2002）年、「**東海道川崎宿を活かした地域活性化方策検討委員会**」が地元町内会、商店街、まちづくりクラブ、かわさき大師観光ガイドの会の参加で発足。調査・検討の結果として、同年度末に市民提案書『**東海道川崎宿 2023 いきいき作戦**』をまとめました。

この市民提案の実現に向け、「**東海道川崎宿 2023（東海道川崎宿を活かした地域活性化推進組織）**」が市民で組織され、行政と協働で川崎宿に関する様々な取組を行ってきました。

年	月	出来事・動き
平成 9（1997）年	3	川崎区づくり白書『区民のまちづくり宣言』『川崎宿の歴史文化に光を』の記載
平成 12（2000）年	4	「 かわさき大師観光ガイドの会 」発足 NPO 法人かわさき歴史ガイド協会 前身
平成 13（2001）年	5	「 大川崎宿まつり 」開催【 写真① 】 万年屋・六郷の渡し再現、歴史時代行列ほか
	11	川崎宿まちづくりシンポジウム 開催
平成 14（2002）年	1	案内標識ワークショップ開催→電柱・街灯への史跡案内設置【 写真② 】
	8	「 東海道川崎宿を活かした地域活性化方策検討委員会 」発足【 写真③ 】
	11	旧六郷橋親柱再現整備記念シンポジウム 山田五郎氏講演ほか【 写真④ 】
平成 15（2003）年	3	市民提案書『 東海道川崎宿 2023 いきいき作戦 』発行
	6	「 東海道川崎宿 2023（東海道川崎宿を活かした地域活性化推進組織） 」発足
平成 23（2011）年	3	『 東海道川崎宿 2023 いきいき作戦 第貳巻 』発行
平成 25（2013）年	10	「 東海道かわさき宿交流館 」開館 ▶P.12
平成 31（2019）年	3	「 東海道川崎宿 400 年に向けた基本的考え方－推進ロードマップ－ 」策定
令和 3（2021）年	2	「 川崎宿起立 400 年プロジェクト推進会議 」設立
令和 5（2023）年	10	「 東海道シンポジウム 2023 川崎宿～むすび つながる 東海道～ 」開催 ▶P.4



6) 前期 (2003～2011) の活動 発足～第貳巻策定

テーマ①拠点づくり …「街道筋への情報・交流拠点」の実現に向けた要望活動や基本整備構想の策定

を進めました。また、芭蕉や弟子たちの句を味わえる芭蕉ポケットパークが日進町に完成しました。

テーマ②まちなみ整備 …各種史跡案内板・総合案内板の設置、丸形ポストや江戸風看板などの整備の

他、品川宿を参考にしたシャッター浮世絵（平成 20 年までに 13 ヶ所整備）の取組を始めました。

テーマ③文化の創出 …佐藤惣之助や坂本九さんの企画展やイベントを開催しました。区内小学生が参

加する「坂本九さん追悼コンサート」「能・狂言体験教室」は現在も続いている取組です。（▶P.15）

テーマ④情報発信 …史跡を楽しみながら学べる「すごろく」の制作などが進められました。

▶平成 23（2011）年 3 月には取組状況を踏まえ更なる実現に向けて担い手や資金、スケジュールなど検討し、提案内容をアップデートした『**東海道川崎宿 2023 いきいき作戦 第貳巻**』を発行しました。

年	月	出来事・動き	テーマ
平成 15 年度 (2003-04)	9	「佐藤惣之助クローズアップ 2003」開催 企画展・コンサート	③
	3	「仮称 かわさき宿おもしろ館」設置要望書 提出	①
	3	「川崎宿めぐりすごろく」「川崎宿めぐりCD-ROM」	④
	11-3	川崎区子ども会議歴史部会活動【下写真①】	③
平成 16 年度 (2004-05)	7-9	「坂本九思い出語り」「坂本九企画展 笑顔の扉」	③
	2	OK ストア前「史跡総合案内板」完成	②
	3	芭蕉ポケットパーク 完成【下写真②】日進町	①
	3	川崎小学校江戸風看板、丸型ポスト 砂子の里資料館前【下写真③】	②
平成 17 年度 (2005-06)	8	坂本九さん追悼コンサート 以降、毎年 8 月開催 ▶P.15	③
	2	能・狂言体験教室 第 1 回は向井小学校、以降年々拡大 ▶P.15	③
	3	東海道川崎宿 2023 ホームページ開設	④
	3	シャッター浮世絵第 1 号【下写真④】平成 20 年までに 13 ヶ所	②
平成 18 年度 (2006-07)	7	閻魔寺寄席 ▶P.14	③
平成 19 年度 (2007-08)	6	東海道川崎宿まちなみまちづくりガイドライン	②
	8-9	佐藤本陣史跡案内板、田中本陣史跡案内板	②
平成 20 年度 (2008-09)	12	京口跡総合案内板・席札復元、内侍所奉安所碑	②
平成 21 年度 (2009-10)	3	『東海道川崎宿歴史資料館（仮称）整備基本構想』	①
平成 22 年度 (2010-11)	3	『東海道川崎宿 2023 いきいき作戦 第貳巻』	



7) 後期（2012-2022）の活動 第貳巻策定～川崎宿起立 400 年前年

テーマ①拠点づくり

年	出来事・動き
平成 16 年度（2004-05）	『仮称 かわさき宿おもしろ館』設置要望書』提出
平成 21 年度（2009-10）	『東海道川崎宿歴史資料館（仮称）整備基本構想』提出
	『東海道川崎宿歴史資料館（仮称）設立陳情書』提出
平成 23 年度（2011-12）	『（仮称）東海道まちづくり文化・交流拠点基本計画』策定
平成 25 年度（2013-14）	東海道かわさき宿交流館 開館（10 月）

■ 東海道川崎宿交流館の開館

『東海道川崎宿 2023 いきいき作戦』の第一の提案「街道筋への歴史文化・交流拠点の整備」は関係者の念願でした。平成 16（2004）年 3 月に「設置要望書」を提出。平成 21（2009）年には候補地を街道筋の本町 1 丁目、旧水道局川崎営業所分室とする「整備基本構想」をまとめました。更には地域が中心となって市民の署名 7,957 名分を集め、「東海道川崎宿歴史資料館（仮称）設立陳情書」を当時の阿部川崎市長に提出しました。



このような市民の動きを受け、川崎市は平成 22 年度（2010-11）に「（仮称）東海道まちづくり文化・交流拠点基本計画」を策定し、駐輪場との複合施設としての整備が決定しました。

平成 25（2013）年 10 月、「東海道かわさき宿交流館」が開館。川崎宿を中心に地域の歴史文化を学べる展示室、市民が利用できる集会室などを備え、本日まで多くの市民に利用されています。



テーマ②まちなみ整備

年	出来事・動き
平成 24 年度 (2012-13)	川崎宿タペストリー設置開始 シャッター絵に代え街道筋に掲出【下写真①】
平成 25 年度 (2013-14)	川崎宿バナーフラッグ設置開始 ▶下記参照
平成 26 年度 (2014-15)	路上喫煙禁止路面標示【下写真②】
	浮世絵トランスボックス設置開始 平成 29 年度までに 12 基【下写真③】
平成 27 年度 (2015-16)	自動販売機ラッピング 浮世絵「役者見立 東海道五十三駅」【下写真④】
	夫婦橋解説版【下写真⑤】
平成 28 年度 (2016-17)	信号機「東海道川崎宿」【下写真⑥】
	自動販売機広告枠活用 浮世絵・旧町名表示・川崎宿エピソードなど【下写真⑦】
平成 29 年度 (2017-18)	浮世絵マンホール ▶下記参照
令和 2 年度 (2020-21)	小土呂橋遺構再整備 新川通歩道再整備に伴い、配置等の変更
令和 4 年度 (2022-23)	田中本陣解説版再整備 建替・マンション新設に伴う再整備

■経年劣化等に伴う史跡案内板等の改修（平成 24 年度～）

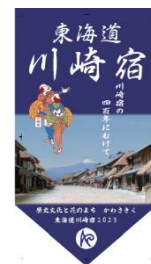
六郷の渡し、六郷橋親柱、橋樹郡衙役所跡、大師駅前案内マップ

■東海道川崎宿バナーフラッグ（平成 25 年度～）

六郷橋から横浜市境まで約 2.5 km の区間の街道筋の街灯、145 基へ設置しました。令和 4・5 年度には川崎宿起立 400 年記念仕様の特別デザインのもの設置されました。

■浮世絵マンホール（平成 29 年度～）

東海道沿いの歩道上の 7 箇所に設置しました。令和 4 年度には「マンホールカード」も制作され、東海道かわさき宿交流館で配布しています。



テーマ③文化の創出

年	月	出来事・動き
平成 23 年度 (2011-12)	12	坂本九生誕 70 周年記念コンサート・企画展
平成 24 年度 (2012-13)	7	川崎宿寄席 ▶下記参照
	11	田中休愚生誕 350 周年記念講演会（講師：三輪修三氏）＆ガイドツアー
平成 25 年度 (2013-14)	11	歩こう東海道川崎宿スタンプラリー ▶下記参照
平成 27 年度 (2015-16)	4	第 1 回 東海道川崎宿 2023 まつり ▶P.6-7
	11	芭蕉句碑に投句箱設置
平成 30 年度 (2018-19)	10	第 1 回 川崎宿大学 ▶P.8
例年開催	8	坂本九さん追悼コンサート ▶P.15
	1-3	能・狂言体験教室 ▶P.15

■川崎宿寄席・閻魔寺寄席（平成 18 年～令和元年）

街道筋の一行寺で 7 月の藪入り（閻魔様御開帳）に合わせ、桂歌助師匠の落語、その他寄席芸を楽しむイベントです。平成 24・25(2012・13)年には「川崎宿寄席」と名を変え開催、平成 26（2014）年からは一行寺主催の「閻魔寺寄席」となりました。令和 2（2020）年以降は新型コロナ禍等で開催されていません。



■東海道川崎宿スタンプラリー（平成 25 年～）

街道周辺の史跡・名所を巡るスタンプラリー。各ポイント運営は地元町会等が担っています。平成 26～29 年度は東京都大田区や横浜市鶴見区の隣接自治体と連携。スタンプ数は当初の 10 程度から 20 以上まで徐々に増やした他、歴史クイズや昔遊び、俳句などの体験も取り入れるなど、年々企画の充実・拡大を図り、1,000 人規模の参加者を得るまで成長しています。

令和元年度以降は地元町内会・団体等による実行委員会形式で企画・運営し、地域一体で参加者を歓迎しています。



■ 芭蕉句碑に投句箱設置（平成 27 年度～）

地元の保存会で守られてきた日進町の芭蕉句碑前に投句箱を設置。スタンプラリーの俳句体験や投函された句から、毎年選んだ作品を日進町町内会館前の掲示板に掲出しています。

（右写真は投句箱の除幕式での集合写真）



■ 坂本九さん追悼コンサート（平成 17 年度～）

川崎区生まれ、川崎小学校 OB の坂本九さんの楽曲を演奏するコンサートです。毎年、坂本九さんが亡くなった日航機墜落事故が発生した 8 月 12 日に、ルフロン川崎 1 階のイベントスペースで開催しています。川崎消防音楽隊と共に川崎小学校高学年の有志児童が出演し、振り付けと共に元気な歌声を披露してくれています。平成 23(2011)年度には坂本九さん生誕 70 周年記念コンサート・企画展も開催されました。



■ 能・狂言体験教室（平成 17 年度～）

平成 18（2006）年 2 月に、川崎・砂子の里資料館前（当時）に整備された丸形ポスト（P.11 年表参照）寄贈のお礼に向小学校で開催し、始まった能・狂言体験教室。現在は区内の全公立小学校に声をかけ、希望校の 6 年生を対象にカルッツかわさき大ホールで、1,000 人以上規模の児童の参加で開催しています。教科書にも載る狂言「柿山伏」を鑑賞の後、狂言の仕草や発声を体験するなど、伝統文化を学ぶ貴重な機会となっており、好評を得ています。



テーマ④情報発信

年	出来事・動き
平成 23 年度（2011-12）	麦人の会発足 麦わら細工の復活 ▶次ページ参照
平成 26 年度（2014-15）	東海道川崎宿 2023 お役立ちガイドマップ発行 ▶下記参照
平成 27 年度（2015-16）	第 1 回 川崎宿三角おむすびレシピコンテスト 川崎小学校特別授業開始 ▶下記参照
平成 28 年度（2016-17）	SNS 勉強会 Facebook ページ開設 現在は更新停止
平成 29 年度（2017-18）	三角おむすびぬり絵 開始 ▶P.8-9 三角おむすび DE ギネス世界記録 町おこしニッポンに挑戦！ ▶P.17
平成 30 年度（2018-19）	川崎おむすび音頭

■川崎小学校特別授業「地域の人たちに聞こう」（平成 27～30 年度）

平成 27～30（2015-18）年度まで、委員が講師となり、川崎小学校 3 年生を対象とした特別授業を行いました。

川崎小学校は坂本九や佐藤惣之助の母校であり、その案内板の設置やイベント等児童と一緒にしてきました。社会科の郷土授業における一コマとして、地域の歴史や文化財、その伝承や保護活動について、地域の大人から聞く貴重な機会となっています。「川崎宿を受け継いでいきたい」、「川崎をみんなに知ってもらい、楽しくなれる場所にしたい」などの感想が児童から寄せられています。



■「東海道川崎宿 2023 お役立ちガイドマップ」発行（平成 26 年度）

東海道川崎宿を歴史探訪する方へのガイドマップとして制作。会議で掲載内容の検討や校正を行い、史跡や川崎宿に関わる活動（東海道川崎宿 2023、かわさき歴史ガイド協会、麦人の会）やかわさき名産品の紹介、案内地図等を盛り込んだガイドマップを平成 26 年度に発行しました。（A3 版、折りたたみ形式で 3,000 部）令和元年度には掲載内容の改訂、再発行にも取り組みました。



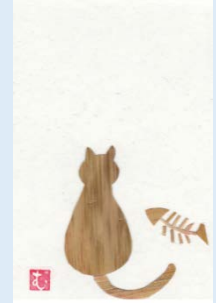
■ 麦わら細工の復活

『東海道川崎宿 2023 いきいき作戦 第貳巻』で、川崎宿名物の復活の提案がありました。そのことから、川崎宿でも土産物として売られていた「麦わら細工」の展示がある大田区立郷土博物館を平成 23（2011）年 7 月に視察。川崎では技術の継承が途絶えていたため、体験講座を企画し、工夫しながら現代によみがえらせる取組を行いました。



麦人の会

プラザ大師等での麦わら細工創作や歴史散策等の講座を経て、有志で立ち上げられた団体。宮前区の障害福祉団体が育てた麦などを活用し、制作した「麦わら細工絵葉書キット」を用いて、区内のイベントで体験ブースや展示を実施するなど、川崎宿麦わら細工の復活・普及に努めてきました。



その他の取組、実現しなかった取組など

「東海道シンポジウム 全国大会」に、2014 年の藤沢宿大会以降、毎年出席。他宿場関係者との交流、情報交換を進めました。こうした交流が相互のイベントへの出演、そしてシンポジウム主催団体である「NPO 法人 歴史の道東海道宿駅会議」の理事会での承認を経て、2023 年の東海道シンポジウム川崎宿大会の開催（▶P4・5）につながりました。

『東海道川崎宿 2023 いきいき作戦』の様々な提案は実現したものばかりではありません。「土産物復活」では、麦わら細工の他、地域で食されていた「ハゼ料理」も候補に挙げられていましたが、東京湾の環境変化等でハゼは獲れなくなっていました。「蔵の保存」等は所有者本人の意思に拠るところが大きく、地道な働きかけが必要です。

一方、「まちなみの整備」で提案されていた「照明による街道筋の演出」は、多大な費用が掛かる為、実現は難しいと思われていましたが、川崎宿起立 400 年プロジェクト推進会議での検討を経て、「東海道・東海道川崎宿中間灯」の整備という形で 2023 年当年に見事、結実しています。



三角おむすび DE ギネス世界記録 町おこしニッポンに挑戦！

平成 29（2016）年 11 月 5 日（日）、「同時におむすびを握る最多人数」のギネスに挑戦するイベントが、川崎青年会議所の企画で開催されました。事前の参加者呼掛け等にも協力、有志が参加し、見事「1,876 人」の世界新記録が認定され、本日まで破られていない記録となっています。



8) 委員寄稿 ～20 年間の思い出、未来へのメッセージ～

川崎の東海道沿道にお休み処を2か所設置し、年1回東海道を歩行者天国にしたいですね。さらには小土呂橋交差点から横浜市境まで歩道の整備ができるといいなと思っています。(原宇八郎)

東海道川崎宿 2023 の委員として、途中からですが参加させていただき、皆様ありがとうございました。これまでの活動で、川崎宿の礎をたくさん築いてまいりました。これからは、歴史と現在を結んでその想いを未来に託し、この 400 年を機に、新しい川崎宿に発展、成長していくことを願います。(木村教義)

地域的に川崎宿は他の宿場と異なり、産業復興の宿場であります。今までのイベントは点の復元でしたが、これからは東海道かわさき宿交流館を拠点とした地域住民による古への更なる深耕です。それには5年毎の面のイベントを企画し、歴史と文化が再現された観光立市として活動ができればベストかなとの思いです。(井上竹夫)

日曜日の日の出時刻、街灯が灯った旧東海道を自転車で走ると右に、左に江戸時代の風景や人々が見えて、1人でも楽しくなります。ここで俳句を詠んだ松尾芭蕉の句碑は、令和の今も、川崎の道標として残されているけれど、これから空を飛ぶ車が通るようになって、令和の時代に灯した灯は、川崎の道標になるだろうと思うと、川崎宿起立 400 年を目指して活動した日々が愛おしい。(鈴木よしえ)

東海道川崎宿の街道を今でも感じられる所を皆様、知っていますか。三井住友銀行の角に松が植えてある所から、川崎信用金庫本店に渡る交差点、右へ下れば川崎駅、左へ下れば新市庁舎。ここで一句「片陰や おむすび音頭の 踊りの輪」400年、踏み固められてきた東海道。この街道を次世代に繋ぐ為に、楽しいまちづくりに皆様でいきましょう。(下村京子)

川崎は工業の町として有名ですが、東海道の宿場から発達したことは知られていません。それでも川崎の中では、少しずつ認知が広がったと感じます。それは「東海道川崎宿 2023」の活動が大きいと思います。ここで止まることなく、歴史的財産を活用し価値を高めていくことが大切だと思います。世界中から観光客が川崎宿に来てくれることを夢見て。(あらたに菓子)

「まちづくり」は、人の心を動かす「感動づくり」。その「共感づくり」ができれば、「人づくり」「仲間づくり」に、そして「コミュニティづくり」になる。誰のため？将来の世代、未来のためだと信じます。長年、ありがとうございました。(岩下薫)

ここは江戸から続く天下の東海道。「そうだったの!」「知らなかった」とは言わないでください。アクセスが良く、伸びしろもある川崎宿。これからの100年、街道整備に本気になれば、防災、観光の面から日本一の宿場になる事も夢ではないと思います。次世代の皆さまにとってワクワクする夢のある街道づくりになることを願ってバトンタッチ!(石渡稔也)

“2023”の意味を尋ねられ、川崎宿起立400年の2023年を盛りあげたい有志です。川崎宿は面白くて深いです!と答えました。スタンプラリーで六郷橋を担当し、寒さに凍えたのも良い思い出です。2023年は終わりますが、この先も川崎宿の魅力を伝えていってください。(岡部佐代子)

川崎信用金庫本店は東海道に面していることから、川崎宿のPRと観光事業発展のため、浮世絵師 歌川広重の代表作「東海道五十三次」の一部をシャッターに描いております。今後も川崎信用金庫は、地域発展のため、東海道川崎宿の魅力発展の取り組みに協力して参ります。(川崎信用金庫 嵯峨野・山口)

2015 年スタンプラリーにほほえみ元気体操で参加。2016 年から委員に。2017 年「おむすびーZU」が発足し、川崎おむすび音頭を広めてきました。おむすびぬり絵を担当し、スタンプラリーや富士通スタジアム夏祭りで、作品集めに取り組みました。シンポジウムは大成功だったと思います。無我夢中で楽しく参加しました。ありがとうございました。(村山和枝)

おむすびコンテストで賞を頂いた事がきっかけで、微力ながら委員として楽しく活動に参加させていただきました。活動を通じて視野の広がりや沢山の学びを得ることができました。これからも多くの結びつきを大切にしていきたいと思えます。温故知新「令和東海道川崎宿」の姿が楽しみです。(菊地利江)

歴史に残る活動に参加でき、良かったです。私たちも川崎宿起立 400 年のイベントに関わって勉強になりました。江戸時代の先輩にありがとう。感謝です。これからも色々勉強させてください。(飯山貴仁・美代子)

平成 14 年「旧六郷橋親柱再現整備記念シンポジウム」での山田五郎さんの「誰かがやるのではなく、自分がやらなければ」との言葉が私の原点。「麦人の会」の立上げ、三角おむすびレシピコンテストの開催や川崎おむすび音頭の制作、シンポジウム誘致等いろんな方に相談、アドバイスをもらいながらチャレンジしてきました。一緒に活動してきた仲間感謝しつつ、これからもできることを続けていきたいと思えます。(池田ハルミ)

皆さんと活動をさせてもらうようになってまだ数年、会議の場で川崎への想いを熱く語らう姿を見て、私も同じ川崎で暮らす者として、もっと川崎の為に何かしたいと思うようになりました。2023 の活動は一旦終わりますが、今後は川崎の歴史を多くの人に伝える活動をしていきたいと考えています。ありがとうございました。(齋藤俊夫)

近所に多摩川が流れ、六郷橋があり、歴史ある宿場の川崎宿と知りました。稲毛公園で開催されていた「東海道川崎宿 2023 まつり」をきっかけに、東海道川崎宿のまちづくりに関わりたいと思い、参加させていただきました。イベントに参加させていただき、楽しかったです。ありがとうございました。(簾内由美子)

「東海道川崎宿」や「大師道」の歴史や変遷を調べ、語り続けてきました。区づくり白書や、まちづくり提案をアイデア溢れる仲間と共に歩んでくれたのも、当初よりの事務局の支えのお陰です。これからも、川崎の大切な「東海道川崎宿」が語り継がれることを願います。「川崎宿 2123!」の時代を皆で夢みたいです!! (中村紀子)

温故知新を胸に抱き生活しています。川崎市内を歩けば芭蕉句碑に出会い、この地で詠まれ、刻まれている句を詠み出すと高揚感を覚えます。また、交流館の川崎宿ジオラマや五榜の掲示の公札を見ると発見するものがあります。昔を偲びつつ語り合い、未来に思いをつなげる話ができる場、お休み処が増えることを願っています。(菅野国男)

東海道川崎宿 2023 が活動をスタートした頃、私は川崎区役所に勤務しており、みなさんの活動を間近で見えてきました。その後川崎市を退職し、交流館に着任した私をメンバーに受け入れていただき、400 年事業にも関わることができました。これまでのみなさんの取組や想いが忘れられることなく、次世代へ引き継がれることを期待しています。(濱舘幸二)

中溝誠一委員には、各イベント等でたくさんの記録写真を撮影いただきました。

その他委員 (2023 年度) : 岡田榮子、芳賀寛、武藤聡宏、村越裕司、山中敏之、吉田照、吉野智佐雄、吉原弘和

歴代代表 : 初代 金岩勇夫、二代 石渡稔也、三代 池田ハルミ、四代 原宇八郎



上段左から：田仲崇宏（区職員）、菊地利江、あらたに葉子、岩下薫（コンサルタント）、濱舘幸二、
外山富之（区職員）村山和枝、斎藤俊夫、簾内由美子

下段左から：木村教義、井上竹夫、石渡稔也、原宇八郎、菅野国男、池田ハルミ、中村紀子（敬称略）

東海道川崎宿 2023 いきいき作戦 第参巻 総括の書

協働による東海道川崎宿の歴史文化を活かしたまちづくり

2003-2023 20年間のあゆみ

令和6年3月

編集：東海道川崎宿 2023

発行：川崎区役所まちづくり推進部地域振興課

〒210-8570 川崎市川崎区東田町8番地

電話：044-201-3127